

海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和5年2月12日～2月24日

所属：名城大学薬学部薬学科

学年：5年

学籍番号：180973166

氏名：森康德

1. 参加目的

海外でどのように薬剤師が活躍しているのか自身で確認したいと思った。具体的には、チーム医療中での薬剤師の役割、薬物治療においてどのように患者に貢献しているのか、日本の薬剤師との違い、アメリカの薬学教育について直接学びたいと思った。

薬局実習、病院実習を経験した現在、海外における薬剤師の職能を発揮できる現場を見学できるのはいい機会だと思い参加した。

2. 研修内容

【研修テーマ】アリゾナ大学薬学部における薬学教育現場、医療施設見学

【研修日程】

月日	研修内容
2/12	トゥーソン到着
2/13	オリエンテーション（アリゾナ州・大学紹介） 講義（貧血、救急医療）
2/14	アリゾナ大学フェニックス校見学 講義（病院薬剤師の仕事・役割、遠隔医療）
2/15	大学自由散策 講義（精神科領域における薬剤師の役割、新規承認の抗真菌薬、遠隔従業の利点欠点）
2/16	講義（体験教育と専門教育、薬剤師によるワクチン投与、有毒動物、英文法）
2/17	大学病院見学
2/18	薬学部学生とハイキング
2/19	サワロ国立公園見学
2/20	講義（アメリカの医療費、がん治療、症例発表） 図書館見学
2/21	CVS 見学 講義（ストレスと燃え尽き症候群、C. difficile）
2/22	講義（EBM、オピオイド、統計解析）

【研修内容の詳細】

講義は研修生と先生で小さい教室で行われる場合と薬学生に混ざって講義を受ける場合があった。貧血の講義では、症例が提示されそこから深掘する case study の形式がとられていた。アリゾナに生息する有毒動物についての講義では、毒物センターを見学し、サソリや蛇を見た。

3. 感想

アリゾナ研修に参加することで、日本とアメリカにおける薬剤師の役割について類似点と相違点を理解することができた。人々の健康へ貢献するという根幹となる部分は同じであるが、薬剤師がワクチン接種を行うことができることや処方に対する薬剤師の権限が日本と比べて強いことなどアメリカでは薬剤師の医療従事者としてのパワーが強いと感じた。

また、テクニシャン制度が充実していると感じた。アメリカの病院ではテクニシャンと呼ばれる薬剤師免許を持っていない人達が抗がん剤の調製や TPN の調製を行い、薬剤師は監査や投与量の調節、相互作用、副作用の確認に力を入れていた。今後、新型コロナウイルスに続いて新たな感染症が流行することも考えられる。その時にワクチン接種を効率的に行うために日本でも薬剤師による接種を可能にすることが望ましいと感じた。アメリカではレクチャーを受け実技試験に合格すれば薬学生でも患者にワクチン接種を行うことが可能という話だった。

現地の講義に参加して感じたことは、生徒の積極性と自主性である。講義の中では机に備え付けてあるマイクで質問や意見を述べた、バーチャル空間を使用してスマホからアクセスできる視聴者参加型のプレゼンテーションを行うなど日本ではあまり見ることのない授業風景だった。

アメリカで経験したことを活かし、今後薬剤師として専門性を高め、活躍していきたいと思う。貴重な経験ができました。関係者の皆様、誠に感謝しております。